



## 7月 ちょっと一言

主任司祭 鵜飼好一

令和元年7月。梅雨はいつ頃明けるのでしょうか。毎年のように梅雨明けが近くなると洪水の被害が懸念されます。水はなくてはならない大切な資源ですが、何事も多すぎるととんでもないことになります。また、6月の下旬には小田原でも地震がありました。日本全国各地で大きな地震の被害が報じられる昨今です。自然災害は全くなくすことは難しいでしょう。「備えよ常に」と言う呼びかけを真剣に心に刻む必要を感じます。

さて、6月には小田原教会 140周年の記念ミサも行われ、たくさんのお恵みを頂きました。皆様のご協力のおかげです。感謝です。そして、新しい出発です。記念ミサで終わるわけではありません。この恵みをバネにして、将来に向けて飛躍できるように願っています。

教会は常に変化し続けます。それは生きていることの徴です。聖書に「わたしたちは皆、…栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです」（Ⅱコリント 3：18）と言われていますが、聖霊の息吹によって教会が常に新たにされて成長していくことができますように、みんなで力を合わせ共に歩みましょう。

典礼的には、大きな祝日が6月に続けて祝われました。わたしたちの心も刷新されたのではないのでしょうか。7月は夏休みに向けての準備の期間のようです。休みと言うとチョットいい響きです。それぞれに有効な実りある休みが取ればいいですね。なかなか思うように休みが取れない方々が多いのではないのでしょうか。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」（マタイ 11：28）と主は私たちを呼んでくださっ

ています。体を休めることと、心を休めることが必要です。しかし、私たちにとって真の休みはイエスさまと共にあって、イエスさまによってもたらされる真の安らぎに与かることです。言い換えれば、「主の平和」に満たされることです。それを忘れないようにしましょう。

神さまが与えてくださった救いの恵みに豊かに与かるとき、私たちは真の休息に与かります。神に心を向け、私たちがみんな神さまの愛のうちに歩み、心も体も癒しの恵みを豊かに頂くことができますように

